

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
鉄道史ゼミ		鉄道や交通を歴史学的アプローチから研究する	大野 絢也	2年次通年	4
科目区分	専門	キーワード	近代史、現代史、経済史、社会史、地域史		
ディプロマポリシーとの対応		3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける			
事前に受講するとよい科目		特になし			
講義の目的	<p>鉄道を中心とした交通に関する過去の文献・史料を引用し、様々な因果関係や系譜を紐解いていく歴史的なアプローチで、卒業論文の作成指導を行う。対象の時代や地域は、日本の国内外問わずいつでもどこでも構わない。普段乗り慣れている電車やバスなどの交通機関は、いつどのような経緯で建設され、運営されてきたのか、ゼミで研究する。</p>				
到達目標	<p>主に次の点について理解し、自らの具体的な考えを論理的に説明できるようになる。第1に、交通体系の発展が何に起因し、いかなる構造的な特質を持っているのか。第2に過去の系譜を踏まえ、今後どのような展開をたどると考えられるのか。第3に、鉄道や交通に関する文献や史料を読み、どういった意義や限界を有しているのか。現代にまで至る交通体系の系譜を、歴史的な背景を含めて複眼的な視野から理解できるようになる事を心掛けること。</p>				
講義内容	<p>前期は主に鉄道を中心とした交通の歴史的事象に関する文献や史料の輪読を行い、個別で発表した後に討論する。それに基づいて自らの興味や関心に基づいた研究テーマを設定する。後期は史料(新聞や一次史料など)や先行研究(書籍や論文)を収集後、研究内容の発表・討論と卒業論文の執筆指導を行う。</p>				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	前期オリエンテーション	前期のゼミの進め方や諸連絡など		
	第2講	導入(1)	鉄道史・交通史研究の意義とは？		
	第3講	導入(2)	鉄道史・交通史研究の学術的系譜		
	第4講	導入(3)	鉄道史・交通史研究における課題と展望		
	第5講	文献講読と討論(1)	戦後日本の鉄道史・交通史		
	第6講	文献講読と討論(2)	高度経済成長と鉄道建設		
	第7講	史料講読と討論(1)	鉄道建設反対運動の発生		
	第8講	史料講読と討論(2)	鉄道建設反対運動に対する国鉄の対応 鉄道建設反対運動の原因、鉄道建設反対運動の背景		
	第9講	史料講読と討論(3)	鉄道建設反対運動に関する地域社会の反応		
	第10講	史料講読と討論(4)	鉄道建設反対運動の原因と背景		
	第11講	史料講読と討論(5)	鉄道建設反対運動の事例分析		
	第12講	史料調査の方法	史料へのアクセス方法、研究機関やデータベースの紹介		
	第13講	先行研究の収集	先行研究の収集と問いの立て方		
	第14講	研究テーマの設定	研究テーマの設定		
第15講	前期のまとめ	前期の内容を踏まえた討論			

	第16講	後期オリエンテーション	後期のゼミの進め方や諸連絡など
	第17講	先行研究の整理	先行研究の整理と問いの見直し
	第18講	史料調査結果の発表(1)	史料調査の結果報告
	第19講	史料調査結果の発表(2)	収集史料の整理
	第20講	史料調査結果の発表(3)	収集史料の分析
	第21講	卒業論文の作成経過報告(1)	全体構成の検討
	第22講	卒業論文の作成経過報告(2)	リサーチクエスチョン
	第23講	卒業論文の作成経過報告(3)	序論の検討
	第24講	卒業論文の作成経過報告(4)	結論の検討
	第25講	卒業論文の作成経過報告(5)	発表と討論およびリプライ
	第26講	卒業論文の執筆指導(1)	問題提起の再考
	第27講	卒業論文の執筆指導(2)	序論と結論の再考
	第28講	卒業論文の執筆指導(3)	形式面の確認と調整
	第29講	後期のまとめ	後期の内容を踏まえた討論
	第30講	卒業論文発表会	各々の卒業論文に対する講評
指導方法	前期は文献や史料の輪読と発表・討論、および史料収集に向けた調査・整理方法を紹介する。必要に応じて、本学の図書館だけでなく、外部機関にも出向いて調査してもらう。後期は研究テーマの発表・討論と卒業論文の執筆指導を行う。		
事前学習	発表準備や卒業論文の執筆に向けた作業を計画的に行うこと。特に文献や史料の収集は、歴史学的手法をとるための重要な作業である。3時間程度の学習時間が目安である。		
事後学習	ゼミ中に教員やゼミ生から指摘を受けた内容や、討論した内容を踏まえて再考し、自らの研究内容に反映すること。1時間程度の学習時間が目安である。		
成績評価方法	平常点(調査状況・発表・討論時の発言)：50%、卒業論文：50%として、総合的に評価する。		
テキスト	特に1冊を指定する事はしない。必要な資料については、各回で随時配布する。		
参考書籍	宮崎省吾『いま、「公共性」を撃つ：「ドキュメント」横浜新貨物線反対運動』創土社、2005年。埼玉大学共生社会研究センター監修『横浜新貨物線反対運動資料』すいれん舎、2008年。		
特記事項			